

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第35号
2017年3月発行



春を感じられる穏やかな日々の中、古河総合公園の花桃の樹や花壇の花も色付き始めました♪

もくじ CONTENTS

新しい出会いを求めて

・・・2

高齢福祉施設トピックス

・・・4

「ふくし」を通して

繋がる未来

・・・5

心ひとつに...

みんなの力に感謝！

・・・3



芳香会活動報告 ・・・6

芳香会スケジュール ・・・6

編集後記 ・・・6

2016年4月14日に発生した熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

新しい出会いを求めて

社会福祉法人芳香会では、新たに「自立訓練機能訓練」を開始致します。間もなく開設から二年が経過する、結城市地域包括支援センター南分室と合わせてご紹介致します。

新たな分野への挑戦 機能訓練サービス等強化推進事業について

平成二十八年九月、芳香会は茨城県が公募する「機能訓練サービス等強化推進事業」に応募し、平成二十九年一月十九日に晴れて推進事業所として選定されました。

この事業は、社会復帰を希望され在宅で生活されている方や回復期リハビリテーションを終え社会復帰を目標とされている方を対象に、事業所へ通っていただき、自立訓練（機能訓練）サービスを提供するものです。

これまでは県の中核施設である「県立リハビリテーションセンター（笠間市）」を中心に行われてきましたが、施設老朽化に加え、現行のセンター方式によるサービス提供が課題となっておりました。障害福祉サービスを身近な地域で受けられない、様々なニーズに対応できない等の理由から、茨城県が独自に「機能訓練等サービスのあり方検討委員会」

を設置し、事業内容の検討とともに県内の五つの地域に推進事業所を選定し、選定事業所には専門職派遣や設備整備等の財政的支援を時限付（平成二十八・二十九年度）で行うという内容になります。



芳香会のこれまでのリハビリテーションは、入所される高齢者や障がい児者への支援が中心でしたので、新たな分野への挑戦とも言えます。また、ご利用の対象となられる方たちの障害の特性（例えば高次脳機能障害）も、これまで経験の少ない分野となるため、様々な知識技術等の習得が必要となります。芳香会にとっては、乗り越えなければならぬ課題がたくさんありますが、これからの障害福祉サービス、また茨城県西地域の障害者リハビリテーションの発展に必要な支援であり、一人でもこの支援を求める方がいらっしゃる限り、続けていかなければならない事業だと思っております。



皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

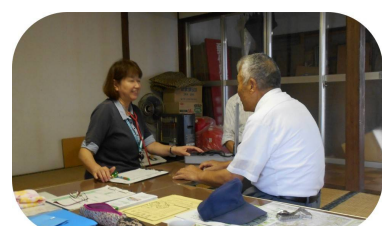
【芳香会病院青嵐荘療育園 副施設長 窪 誠勇】

地域包括支援センターは こんなことをやっています！

皆さん、地域包括支援センターをご存知でしょうか。全国の市町村に、現在約四七〇〇センターが設置されています。地域包括支援センターには専門職（保健師や看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員）が配置されており、概ね六五歳以上の方のご相談をお受けしています。が、よらずや相談所なので六五歳以下の方もお受けしています。

さて、芳香会は平成二十七年四月から結城市より委託を受けて、結城市地域包括支援センタ

ー南分室を開設しました。担当は、結城市の南の地域です。当センターでは、大きく分けると個別相談と地域活動をしています。個別相談は、昨年度で五三八件ありました。相談を事務所で待っているのではなく、訪問や地域の縁日で出張相談会、自治会サロンの参加などでご相談をお受けしています。また、お身体の状態に合わせた体操教室等を紹介し、介護予防につとめています。地域活動は、地域のニーズに合ったものを展開しています。例えば、男性中心の「Men'sサロン」を開催して



ます。介護している家族の交流会には、介護経験者に一緒に話を聞いてもらう工夫をしました。活動では、民生委員の方や自治会の方、老人会の方などに、ご協力をいただいています。



最後に、地域包括支援センターの活用法です。例えば身内や身近に遠方に高齢の親が一人暮らしをしている、祖父母二人暮らしである、高齢の母と息子の二人暮らしであるなど、心配なことがあれば、その方のお住まいの地域包括支援センターに、ぜひご相談下さい。実際、当センターにも、遠方に住むお子さんやご兄弟の方から、結城市に住む高齢の親や一人である弟が心配と、ご連絡をいただくことができました。皆さんの身近なセンターでありたいと思います。

【結城市地域包括支援センター南分室

分室長 野村幸代】

心ひとつに…
みんなの力に感謝！

献血活動への協力について

芳香会では、地域貢献事業の一環として、茨城県赤十字血液センターが行う献血活動に協力しています。

今年六年目を迎える本事業は、平成二十三年六月二日に、「地域貢献として何かできることはないだろうか」という、芳香会職員のアイデアをもとにスタートしました。

献血事業は毎年二回、上大野地区と結城地区各々の会場にて実施しております。昨年の十一月で通算十二回目を迎えることができ、これまで述べ六二八名の方々に参加していただきました。当法人職員をはじめ、地域の皆様のご協力があったからこそ、継続し実施できる事業であると改めて実感いたします。

来年度も五月に第一回目の実施を控えております。輸血用血液の安定供給に貢献するため、ご参加いただきますよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。

【芳香会法人本部事務局 事務員 谷口絢香】

平成28年度 献血実施報告

	400ml	200ml
5月	42名	1名
11月	32名	1名
合計	74名	2名
総献血量：30,000ml		

～次回献血実施予定～

上大野地区 5月24日（水）

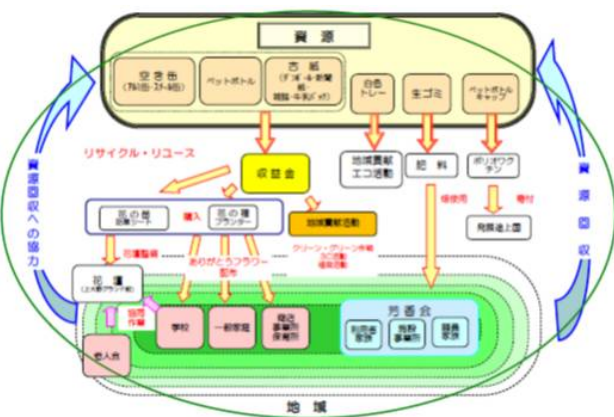
会場：地域交流ホーム
（古河市上大野698）

結城地区 5月26日（金）

会場：青嵐荘特別養護老人ホーム
（結城市七五三場210-1）

エコ・リサイクル活動継続中

芳香会では、平成八年に障害者の社会参加と日中活動の充実を目的としたリサイクル活動を落のとう舎にて開始し、平成二十年からは養護老人ホームや療養園も加わり、高齢者・障害者施設を中心に活動の規模が法人全体へ拡大しました。過去八年間の主要回収三品目（アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・紙資源）の総回収重量は約二〇〇トン。回収品目の個の重量に差はありますが、全体の約七割を占めております。資源の確保や活動がここまでするまで、私たちの力だけではなく、地域の皆様やご家族の協力によるものです。



回収量の増加とともに、地域との関係性にも変化が見られ、これまでお付き合いのなかった新しい活動へと発展していきましました。この繋がりは、リサイクル活動を通じて生まれたご縁であり、今後もこのご縁（円）が広がるよう努力して参ります。

諸団体との関係構築へと繋がり、さらには新たな活動へと発展していきましました。この繋がりは、リサイクル活動を通じて生まれたご縁であり、今後もこのご縁（円）が広がるよう努力して参ります。

【青嵐荘落のとう舎 副主任相談支援員

石田博紀】



小さな積み重ねと 大きな栄誉

上大野地区では様々な地域貢献活動に取り組んでおりますが、最も歴史のある活動が県道二四号線（上大野グラウンド前）および国道二五号線沿い（県道一二四号線との分岐地点）で実施している花壇維持活動です。平成二十七年には茨城県の『道路里親』に認定されましたが、この度「大好きいばらき県民会議」が主催する『第四回 花と緑の環境美化コンクール』において茨城県議会議長賞を受賞しました。



平成二十八年十一月三十日に表彰式が執り行われ、授与された表彰状は関係する団体の皆様へお渡しし喜びを分かち合いました。

荒れたままとなっていた花壇の復活に取り組んだのがおよそ八年前。その後、上大野小学校および上大野親愛クラブとの協働事業に発展し、現在では各団体の年間行事の中に年二回の植栽活動が定着しております。



花壇維持は決して楽な作業ではなく、特に夏季は水不足や虫害との戦いが続きます。多くの手間と情熱が求められますが、地域の皆様と繋がりがながら発展してきたこの活動を今後も大切にしていきたいと思ひます。お近くにお越しの際には、是非咲き誇る美しい花々をご鑑賞下さい。

【青嵐荘療養園 副主任相談支援員

高橋賢太】

高齢福祉施設トピックス

シニア世代の活躍

青嵐荘ケア・アシスタンス

青嵐荘ケア・アシスタンスでは、六十歳以上のシニアの方達もたくさん活躍されています。

介助員（三名）には、建物内外を日々清掃して頂いています。清掃は気配りが大切で、「ご利用者が安全に過ごせるように」、「職員が仕事をしやすいように」と施設を支えています。二十六年目を迎えるケア・アシスタンスですが、ご利用者に『綺麗ですね』と褒めていただけているのも、介助員の皆さんのおかげです。

営繕班（二名）には、館内整備や通所サービスの送迎等を担当頂いています。最近では、リハビリ専門職のオーダーに添えて、ご利用者が食事のしやすいテーブルを作って頂きました。ご利用者にも大満足して頂き、笑顔で食事を召し上がっています。

介護補助員（二名）は、ご利用者とのコミュニケーションや見守りなど、介護員の手が届きにくいところを支援しています。コミュニケーションが増えたことで、認知症のご利用者の笑顔が更に増え、歌声を聞かせて下さるようになりました。その笑顔と歌声に職員が励まされる相乗効果も見



れています。一つの施設でも、様々な職種・年代の職員が働いています。職員一人一人の力を発揮させ、「ご利用者の生活の質の向上」を図っています。

ひとりひとりに寄り添った支援を

青嵐荘養護老人ホーム

青嵐荘養護老人ホームでは、二十八年度前半に要介護三以上の方は介護保険施設等へ転居していただくという大きな事業転換を行い、年度後半からは少数になった利用者への支援方法や内容などを検討してきました。日課を見直し、利用者の方々の意見を伺い、新たな活動を日課に組み込むこととしました。利用者の方からは「手の運動がしたい」「認知症予防のため何かやりたい」といった意見が寄せられたため、希望に沿えるよう整備をしました。



手の運動については簡易型のプリーシーを導入し、認知症予防のためには折り紙や塗り絵、計算ドリルなどの脳トレに取り組めるよう準備をさせていただきました。現在も行っているペットボトルリサイクルや紙漉き活動、菜園活動は参加できる方が限られる傾向でしたが、メニューを増やしたことで自ら活動を選択し、積極的に参加される方が増えました。



何より職員が利用者の方々とコミュニケーションをとる機会が増えたことで、見えなかつた生活の困りごとに気づくことができるようになったことが大きな収穫です。

ひとりひとりと向き合い、顔をあわせて話をする。支援者としての基本ですが、改めてその大切さを実感しています。

結城地区合同年始会開催

青嵐荘特別養護老人ホーム

青嵐荘特別養護老人ホームがあります結城地区では、一月十四日（土）に青嵐荘養護老人ホーム、グループホーム穂の香、デイサービスセンター青嵐荘との合同にて結城地区合同年始会が開催されました。

会の中では、毎年恒例の鏡割りがありご来賓の方々とご利用者の代表にて賑やかに行われ、催しの部では巨大書初めとして千支の「酉」を力強く書かれました。



この巨大書初めは平成二十五年度から毎年行われており、ご利用者やご家族からも好評を頂いております。準備の段階から職員も当日どのような作品ができるのか、楽しみにしながらの作業でありました。



書初めは青嵐荘特別養護老人ホームの窓口に飾られております。お寄りの際には是非とも足を止めて観覧いただければと思います。

「ふくし」を通して繋がる未来



「ふくし」に携わる人材を絶やさないためには、どんな取り組みができるでしょうか？今号では、未来の福祉人材のため、また、現在活躍していたいている職員に対しての取り組みをご紹介します。

古河中等教育学校福祉セミナーについて



私たち社会福祉法人芳香会がある古河市には、中高一貫校である茨城県立古河中等教育学校があります。古河中等教育学校には四年次生を対象とした「医学系進学研究会」が発足されており、医師等に必要の資質を養う取り組みが行われています。

今回、将来を担う人材の育成と生徒の皆さんの職業選択の一助となることを目的とし、福祉セミナーを開催することとなりました。



平成二十九年三月四日（土）に生徒十七名、教員二名が来園し、上記セミナーを開催致しました。「看護師、理学・作業療法士、管理栄養士、社会福祉士」の体験実習を行い、ご利用者との触れ合いから実際の業務を学んで頂きました。また、コミュニケーションロボットや移動リフトについても操作・体験を行い、福祉の現場で導入されている先進機器への理解を深めて頂きました。生徒の皆さんからは、普段知ることの出来ないご利用者の様子や福祉機器の



性能に驚きや感嘆の声が聞かれました。本セミナーを実施するにあたり、担当教員からは実体験で得た学びを大切にしたいとの言葉が聞かれました。福祉機器体験等を通して、一つでも新たな経験を積み、進路選択に活かして頂ければ嬉しく思います。また、四月からは新任職員が勤務開始となります。次代の福祉を担う方々が積極的に福祉機器を活用出来るよう、これからも取り組みを続けて参りたいと思います。

【青嵐荘療護園 高橋相談支援員】

古河三高スプリングコンサート開催



平成二十九年三月五日（日）に、通算二回目となる『古河三高スプリングコンサート in 療護園』を盛大に開催しました。周年記念行事で茨城県立古河第三高等学校吹奏楽部の皆さんと繋がる機会に恵まれ、昨年度よりスタートした催しとなります。

当日は本格的な春の訪れを感じさせる穏やかな気候で、青嵐荘ケア・アシスタンスのご利用者ならびに職員も一緒に楽しい時間を過ごしました。「NHK朝の連続テレビ小説」のテーマ曲でお馴染みのポップスナンバー、坂本九さんが歌い上げた永遠の名曲と、レパートリーの広さに驚きつつ生音の迫力にすっかり魅了されました。最後の合唱では、その圧倒的な音量と厳かな雰囲気、鳥肌が立つほどでした。アンコールを含めた七曲をご披露頂き、拍手喝采の中、コンサートは幕を下ろしました。真剣に聞き入る方、手拍子で声援を送る方、涙を流しな



がら感動されている方とご利用者の反応は実に様々でした。いずれも生き生きとした表情がとても印象に残り、このような機会に恵まれた事を嬉しく思いました。

古河第三高等学校吹奏楽部の皆さん、本当にありがとうございました。

【青嵐荘療護園 高橋副主任相談支援員】

内定者親睦会を実施しました



平成二十九年一月七日（土）内定者親睦会を実施いたしました。内定後、初めて顔を合わせることなつた親睦会。四月の入職に向けて、内定者同士の交流を図るとともに、芳香会のことを少し知る機会になったと思います。今回の親睦会は、午前と午

後の二部構成で実施することとなり、自己紹介から始まり、福祉機器体験、ふれあい囲碁体験と幅広い内容を通して、内定者同士、そして先輩職員とも交流を深める良い機会になったように感じられました。

午後の部では「ふれあい囲碁体験」を実施しました。養護老人ホームで手作りされた大きな囲碁盤を使用したチーム戦からはじまり、先輩職員と内定者総当たりで個人戦も行いました。交流を図りながら、囲碁を楽しんでいる姿が大変印象的でした。

新卒内定者は九名と少人数ですが、同期の絆を深める良い機会になったのではないかと思います。四月からの芳香会職員としての活躍を期待しています。

【法人本部事務局 谷口事務員】

芳香会活動報告

実務研究・実践における創意工夫発表会開催



昨年十二月二十二日（木）、ネーブルパーク研修センター平成館において、「実務研究・実践における創意工夫発表会」が開催されました。



この発表会は、「実務研究発表会」として平成七年度にスタートし、途中、中断していた取り組みにチャレンジし、そのことを振り返って検証し、試行錯誤していく中で得られた成果を芳香会内の職員間で広く共有するために始まったもので、前回からは、より多くの職員がエントリーできるように「実務研究の部」「実践における創意工夫の部」の二部構成とし、門戸を広げました。

今回は十名の職員により六題の発表がありました。保育士、介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士と、様々な職種から、施設利用者個人へのサービス提供の改善に関することから、システムとしての職員の業務改善や施設の環境整備に至るまで、多種多様な発表がありました。

芳香会は、三年後に創立五十周年を迎えます。この五十年にわたる実践の過程で積み上げられてきた「実践知」を、埋没させることなく言語化することで、職員全体で共有し、ひいてはサービス利用者の生活の質の



向上に寄与できること、このことこそが芳香会の五十年の歴史が持つ意義なのだろうと、改めて考える機会となりました。

【芳香会社会福祉研究所 酒寄研究主幹】

研究員からひと言

平成二十八年度実務研究発表会では、今年も各施設の実践知が詰まった素晴らしい発表を拝聴することができ、利用者に寄り添う日々の取り組みを継続した実践や、新しく取り入れた実践、地域を掘り起こす実践など、芳香会の強みである活動の麓の広さを改めて感じました。今後も引き続き芳香会での様々な取り組みを実務研究発表会や全国大会などを通して共に広げていけたらと存じます。貴重な機会をありがとうございます。

【芳香会社会福祉研究所 渡邊研究員】

職員の皆さまの多岐にわたる実践での創意工夫や情熱が感じられる素晴らしい発表会でした。写真やグラフ、動画などを効果的に使用し、聴衆を惹き込む発表方法もまた印象的でした。より良い発表にしようという学習会へ熱心に参加された努力が実を結んだのだと思います。私自身、各施設が取り組まれている実践から多くのことを学ばせていただきました。このような貴重な機会に参加させていただいたことに感謝申し上げます。

【芳香会社会福祉研究所 佐野研究員】

芳香会スケジュール

三月十一日 理事・評議員会
三月十三日・十四日 内定者研修会
三月二十八日 平成二十九年度入社式
四月一日 付辞令交付式

編集後記

早いものです。記念樹二本も植栽して頂き一年が経過しました。先日、総合公園の花壇の管理登録をしましたので、今後は足を運ぶ機会も増えます。春季には多くの方が訪れる公園名所であり、綺麗な風情が楽しみです。【花壇作りはひとつくり】と言う言葉を思い出しました。（光）

先日、第一子が誕生しました。残念ながらインフルエンザに罹患し、出産には立ち会えませんでした。ようやく実感が出てきました。暫くは落ち着かない日々が続くそうですが、皆さんに助言を頂きながら頑張りたいと思います。（賢）

春の風を感じる今日この頃。まさに花粉の季節到来でしょうか？目に見えない敵程、怖いものはありませんね。皆さんも花粉症対策をしっかりとこの季節を乗り切りましょう。（絢）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。